

大原温泉

大原の里「民宿」が運営する「温泉」は、京都府で健康に有益な効果が証明されている数少ない温泉のひとつです。

温泉は、民宿が最初にオープンしてから約 40 年後の 2014 年に初めて採掘されました。温泉は深さ 1,175 メートルで発見され、水温は一定の 27.9 度ですが、お風呂で使用される前に 40 度に加熱されます。水は毎分 120 リットルの速度で地表に湧出します。

水の分析では、ラドンとナトリウムが多いことが示されていますが、他にも多くのミネラルや化合物が豊富に含まれています。温泉の運営者によると、この温泉での入浴は、筋肉痛、消化不良、関節痛など、多くの症状の治療に役立つとされています。

水は無色透明で、最適な入浴時間は 3 ～ 10 分です。また、民宿の運営者によると、皮膚に着いたミネラルの残留物が体内に吸収されやすいよう、温泉から出た後に身体をすすがないようにすることをお勧めしています。

他の温泉と同様に、男女それぞれの浴室があります。「のれん」の向こう側で、利用者は服を脱いで、かごに入れておきます。彼らは低い椅子に腰掛けて、洗面器にお湯をすくい、入浴前に身体をきれいに洗い流します。男湯にも女湯にも、内湯、露天風呂、および「露天五右衛門風呂」（直火で温め、最大 4 人まで入浴できる大釜の浴槽）があります。